野球 スポーツと私

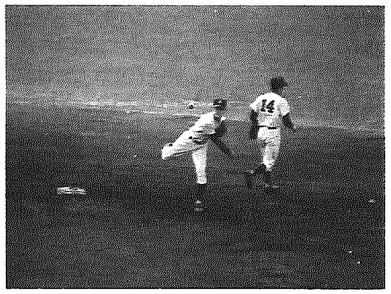
シリーズ No.4 生涯スポーツ

室内練習場を

寺地団地　那須野　将幸

私が、『野球』というスポーツを始めたのは、ただ幼い頃から、テレビ中継を見たり、父や兄とキャッチボールをしたりと、自然のうちに野球と関わり合いを持っていたからではないかと思います。そして、今まで、野球を続けてこれたのは、いい仲間といい指導者に恵まれたからだと思います。とにかく、「野球は面白い」ということを教えてもらい、実際にその面白さという意味が分かってきて、楽しくて仕方ないということが、今では、野球と切っても切れない関係になることになったのではないかと思います。

私は、小中学校とピッチャーでした。高校に入学してからも、1年夏までは、ピッチャーでしたが、ある日突然、ショートにコンバートされたのです。正直言って、不満でした。そして、不安でした。不満だったのは、憧れの明訓高校で、エースナンバーをつけたいという夢があったからです。しかし、不満はすぐに消えました。私が、野手に転向することによって、チームが良くなるのなら、それでいいと考えたからです。ところが、いつになっても、不安だけは消えません。ピッチャーしかやったことのない私が、内野手の、しかもショートというポジションを守れるのか、レギュラーは獲れるのか、という事の不安材料を一つずつ消していこうと考えたのです。はじめは、グランド整備を一生懸命やりました。グランドがデコボコだと、ボールがイレギュラーバウンドし、捕る時に頭をよけ、腰が高くなるからです。次に来たボールを最低でも体に当て、前に落とす、堅実さを身につけ、次に……。というように、一つずつクリアーしていき、自分の基本姿勢が固まった時から、ガムシャラにノックを受けました。その結果、1年の秋にベンチ入りすることができ、2年の秋には、レギュラーを獲得でき、その秋の北信越大会で、準優勝し、春の甲子園切符を手に入れました。



我が明訓野球部には、四つの部訓があります。

『感謝』…野球ができる喜びを感じ、接する全ての人と物に感謝しよう。天と力をも味方とできよう。

『氣力』…全ての基本は氣の力である。一流と二流の差は氣力の違いである。

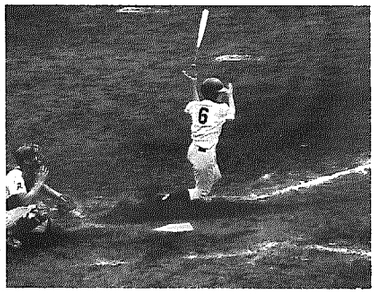
『継続』…継続は力なり、風なる力を変えられるのは継続だけである。

『前進』…立ち止まらず、振り向かず、常に大いなる希望を持って前進しよう。

部訓の中でも私が、特に大切にしたいのは、「感謝」です。甲子園に出場できたのも、自分達の力だけでなく、常に周囲の人々からの協力があったからなのだと、痛感しました。応援して下さった町の方々、歓迎会を開いて下さった黒埼町野球連盟の方々に、心から感謝申し上げます。有り難うございました。

町の将来のスポーツ普及など要望としては、ドーム球場を作ってほしいとは言いませんが、ダイヤモンド一つ入る位の大きさの室内練習場があればいいと思います。昨冬、静岡に遠征した時、新潟とは気温がまるで違い、常にボールを握っていることができました。その温暖な地域にも室内練習場があったのです。新潟は雨だけでなく、雪も降りますし、明訓高校のように、センバツが決まっても、室内練習場がないという高校に優先的に貸してもいいですし、冬場のゲートボールにも適していると思います。

私は春から大学に行きます。もちろん野球も続けます。県の優秀選手賞を頂き、昨秋のドラフト会議の候補として、C評価でしたが、新聞に載ったので、新天地で本気になって練習し、4年後のプロを目指そうと思います。



スポーツ大会

◆冬季屋内ゲートボール大会
（3月16日、総合体育館）
優勝・金巻1チーム②CPチーム③KJチーム　※20チーム、150人参加

◆第98回碁友会囲碁大会
（2月11日、黒埼町公民館）
A級優勝・山際勉　B級優勝・大沢三郎　C級優勝・鹿島耕平
※次回は、4月29日(火)に黒埼町公民館（役場2階）で開催します。多数のご参加をお待ちしています。
☎荏原祐司（☎377－2532）

★平成9年度社会体育事業
教育委員会では、平成9年度に次の教室を予定しています。〈少年サッカー教室〉㊐4月～12月の第2土曜日午前10時～12時㊏多目的広場㊋町内小学生4～6年〈レディスヘルシースポーツ教室〉㊋5月～翌年3月の土曜日午後1時30分～3時㊏総合体育館㊋一般町民（女性）〈町民体力づくり移動林間ウォーク教室〉㊋5月～11月、12回程度㊏近隣市町村㊋一般町民

★体力つくり100日運動
年間を通じて、個人もしくは家族連れで100日運動をした方に認定書を贈呈いたします。
☎社会体育課（☎377－5211）

★バドミントン技術向上教室
日本リーグ1部所属のトナミ運輸バドミントンチームが来町されます。この機会に皆さんもご観戦ください。㊋4月12日(土)午後1時～・13日(日)午前9時～㊏㊋総合体育館（☎377－5211）

やかた竿燈に向けて Part 6

今月号では、「やかた竿燈みこし」を始める際のアドバイスや「黒埼まつり」に参加協力を頂いている巻町商工会青年部の方です。

その日、空は青く澄みわたり、本番のステージを星空でライトアップする為の準備をしているかのようであった。

平成8年8月17日午後過ぎ、20歳の若い力を助けに魂を創り始めた。今日は、やかた竿燈でつながった友の街へ。我々の魂を持ち、「祭」にやって来たのだ。「祭」を通し友人が増えていく。我が街、巻から大潟町へ、津川町へ、そして黒埼町へと、魂のつながりは、広がりを見せ始める。たったひとつの「やかた竿燈」という「祭」が数百人の魂を結んでいる。20年ほど前、巻の若い衆の心にともった灯は、「やかた竿燈」を世に出した。「祭」を自分達で楽しみたいという気持ちが生んだ、青年の灯であった。20年余に渡り引き継がれた魂は、その灯を消さず、様々な局面を乗り越えてきた。年々、町民に認知され、近年、その盛り上がりは、とどまることを知らない勢いだ。「夏祭」のフィナーレを飾る、夜の「祭」として、楽しんでいただける様になった。年々、新しい魂の参入があり、「祭」は広がる。また、「祭」には、人を集める力があり、竿燈の灯に人は集まってくる。

「祭」を創り上げる。一人の力では、「祭」は創れない。多くの人の思いが集まり、その思いがひとつの方向へ向かった時、「祭」が動き始める。たくさんの人々の生みの苦しみが、形になった時、更に多くの人々の心を動かし、「祭」が生まれる。踊るアホウに見るアホウ、双方がいて、「祭」は盛り上がる。踊るアホウがいるから見るアホウがいる。見るアホウがいるから踊るアホウが更にアホウとなり、「祭」は盛り上がっていくのだ。昔から言われていることだが、同じ楽しむなら、やはり、踊るアホウが楽しい。更に言うなら、創るアホウが、踊るアホウになればもっと楽しい。生みの苦しみを知るアホウは、「祭」当日、苦しみを忘れ、最高の出演者となれる。

恥ずかしがらず、面倒がらず、一歩だけ踏みだすだけで、その楽しみは手に入るのだ。やってみなきゃわからない、やってもわかりづらいことも最近多いが、竿燈は単純で、一度参加しただけで楽しめる。そして友達になれる。そこに上下の関係はなく、むずかしい決まりもなく、「祭」を楽しみたいという気持ちだけでいいのだ。一度、「祭」に参加しただけで、自分の中の「祭」は、変わる。見る「祭」から、創る「祭」に変わる。その時の気持ちは、言い表しようがないくらいに新鮮で、楽しくて、うれしいものだ。自分の中に、自分の「祭」が生まれる。

竿燈は単純な故に、多くの街に広がりを見せているのではないだろうか。単純な故に、人の心に入りやすいのではないだろうか。ひとつの「祭」が、たくさんの人の心をつないでゆく。そこに、この竿燈の魅力が、「祭」の魅力があるような気がする。年を超え、性を超え、ひとつになれる世界がそこにある。とにかく参加してみることだ。

楽しさは、人が与えてくれるものではなく、自分が創っていくものだ。もし人が与えてくれる楽しさがあったとしても、自分で手に入れた楽しさは、その数倍以上の喜びがあると思う。

私が魂を、竿燈を、創るかたわらで街は、一時の祭の中休みをとり、静かに、夜の勇者の出番の時の為に力をたくわえていた。徐々に仲間が集まり始め、少しずつ、少しずつ「祭」がその姿を見せ始めた。いやが上にも気持ちは高揚し、出番を待ちきれない思いが顔を出す。が、その思いを我慢し、心の中へ押し込み、魂を凝縮し、爆発の時を待つ。抑えきれない思いとは裏腹に、静かに、静かに、闇がおとずれ、舞台が出来上がっていく。

そして、その時がやってきた。魂をときはなつ瞬間、すべての「祭」が走り出す。すばらしい夜の始まりである。

人々の集まるところに「祭」が生まれ、「祭」がまた人を集める。その輪の中に自分がいる。

巻町商工会青年部
地域振興委員長
相馬　透

参加を希望される方は
商工会青年部へ
☎377－3155